

東アジア言語文化学会第 4 回会報

文責：高橋弥守彦 趙海城 胡傑 栗原千里

目次

- 1. 月例会..... 1
- 2. 2023 年度夏季大会 2
- 3. 2023 年度冬季大会 3
- 4. 学会誌刊行..... 6
- 5. 2024 年東アジア言語文化学会東北支部大会 6
- 6. 連語論普及委員会活動報告 6
- 7. 2024 年度大会 6
- 8. 会計報告、次年度予算案 8
- 9. 事務局からの連絡 9
- 10. 2025 年 4 月～2026 年 3 月期の役員選挙 9

1. 月例会

- 1.1 研究発表の人数と持ち時間など：テンセント会議により原則 1 名で研究発表、2 名の場合もある。研究発表 40 分間、質疑応答 20 分間。研究発表と質疑応答を合わせて 90 分まで延長可。
- 1.2 テーマと要旨：研究発表希望者はテーマと要旨 500 字前後を 3 週間前までに学会事務局（higashiajiagengobunka@hotmail.com）まで連絡をすること。
- 1.3 2023 年度の月例会における研究発表は以下の通りである。

2023 年度(2023 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日)

No.	発表者	発表タイトル	年月日
1.	周亜芸	国境を越えた若者の言語使用とアイデンティティの意識変容—中国から日本へ移動した元留守児童を中心に—	2023/3/17
2.	王佳慧	中日邦交正常化以来经济领域词汇交流的研究	2023/4/21
3.	小田 桐 ジェイク	テキスト・マイニング手法を使って太宰治『人間失格』に関する評価を再検証	2023/5/19
4.	周亜芸	教師と学習者のコミュニティー形成に関する実践研究—エピソードをメインテキストとした日本語の授業—	2023/6/16
5.	高橋 弥 守彦	中日両国の文化と言語について	2023/7/21
6.	高橋 弥 守彦	メトロノーム理論から見る中日両言語の語順について	2023/9/15

7.	黄紫琴	中国文学《安魂》在日本的多模态译介与传播	2023/10/20
8.	高橋 弥 守 彦	限定語の日本語訳について	2023/11/17
9.	小田 桐 ジ ェイク	日本近代文学作品における句読点の機能—太宰治『人間失格』の 読点が促す「笑い」を中心に	2023/12/15
10.	オウ シ ギ ョウ	中国ドラマの日本語字幕における拡張と削減に関する研究 —『明蘭～才媛の春～』を例に—	2024/1/19
11.	申 華	多模态教学模式在初级汉语写作课中的应用研究	2024/3/15

2. 2023 年度夏季大会

2023 年度夏季大会のプログラムは以下のとおりである。

開 催 日：2023 年 8 月 5 日(土)、6 日(日)

開催時間：9:20～17:30 （時間はすべて日本時間）

時間配分：講演 50 分、質疑応答 10 分、研究発表 25 分、質疑応答 10 分

開催形式：オンライン(テンセント会議)

No.	発表者(所属・身分)	発表タイトル
基調 講演	修剛(元天津外国語大学学長 教授)	対日翻译中的认知语境处理——中国翻译教学与研究的动向
	福田涼（県立広島大学 講師）	教室で読む原民喜『夏の花』
1.	楊心怡（四川大学・院生）	新感覚派時代における横光利一の死生観への一考察 — 『蠅』と『春は馬車に乗って』を中心に—
2.	裴淑潔(天津外国語大学・院生)	日本の民間伝説における異界・境界・越境
3.	林祥瑜(南京工業大学・副教授)	日本“新冠小说”中の疫病书写及其文化功能
4.	劉雯雯(天津外国語大学・院生)	中日民間伝説における「不具」者の民俗学的考察
5.	于達（大連外国語大学・講師）	泉鏡花の「知つたふり」——姦通のアンソロジー
6.	崔雪（広島大学・院生）	雑誌『改造』に掲載された演劇から見る「現代支那」の思想と社会 —翻案の視点から見る郭沫若の「王昭君」—
7.	呉川(日本大学・特任教授)	语料库翻译学两种研究范式的尝试——以江戸川乱歩短篇小说注译本为例
8.	畢文涛（北京語言大学東京校・講師），王天予(北京語言大学東京校・講師)	《国际中文教育中文水平等级标准》对日本中文教育的启示——以国别化教材开发为例
9.	狄燕（山东青年政治学院・助教）	我国高校日语教材的文化内容及其呈现路径研究
10.	高野晃尚（中南大学・講師）	中国日本語教育における異文化コミュニケーション教育： テキスト分析を中心に
11.	潘藝梅（慶応義塾大学・講師）	「二十世紀上半期の日本における初級テキストの中国語

		発音諸要素の変遷について」
12.	高洋（国際医療福祉大学・院生）	PAC 分析による大学日本語教師の教育信念に関する研究
13.	孫楊（揚州大学・副教授）	「吸う」と「呼吸する」の使い分け
14.	陳曦（立命館大学・院生）	日本語受身文と中国語受身文の対照研究 —視点から—
15.	鄧亜曄（江西科技師範大学・講師）	中日受身表現における視点関与の対照研究
16.	李哲（常州工学院・副教授）	日中両言語のとりたて表現の解釈曖昧性と情報構造
17.	黄俊晶（天津外国語大学・院生）	中国語と日本語の使役移動事象における経路
18.	池間里代子（十文字学園女子大学・教授）	日本明治期における外来語表記について—村井玄斎『食道楽』を題材に—
19.	蔡玉婷（名古屋大学・院生）	「表出」を表さない心理動詞のテンス・アスペクトと人称—動き動詞との比較を通して—
20.	郎寒曉（上海外国語大学・院生）	日语写作评分系统的一致性及影响因素研究
21.	呂芳（関西大学・講師）	受け身構文に見られる格助詞「に」の脱落と過剰使用 —中国語を母語とする日本語学習者の誤用例を手掛かりに—
22.	賈麗娜（上海外国語大学賢達経済人文学院・講師）	LDA モデルと共起ネットワークに基づくトピックマイニング研究
23.	安明姫（工学院大学・講師）	「だろう」の中国語訳についての一考察 —日本の現代小説を中心に—
24.	趙海城（明星大学・教授）	絵描写タスクから見る中国人日本語学習者の語彙習得過程の変化 —B-JAS と I-JAS、JASWRIC の比較を通して—
25.	柳宇星（日本大学・助教）、王品（遼寧大学・講師）	異文化の視点から見た日本人の世間について
26.	何雲艷（関西学院大学・講師）	日本大学生汉语初学者常见问题的偏误分析及教学建议——以长崎大学及关西学院大学的汉语初学者为分析对象
27.	高橋弥守彦（大東文化大学名誉教授）	中国語の連述文と兼語文について
28.	胡春艷（東北石油大学・副教授）王鼎（苏州大学・教授）	AA 式重言とその日本語の受容についての通時研究 ——大地コーパスを中心に——
29.	魯 昱瑋（広島大学・院生）	汉语亲属面称的非常规性用法及其语用功能

3. 2023 年度冬季大会

2023 年度冬季大会のプログラムは以下のとおりである。

開催日：2024 年 2 月 17 日(土)、2 月 18 日(日)

開催時間：9:20～17:00 （時刻はすべて日本時間）

時間配分：発表 25 分、質疑応答 10 分

開催形式：オンライン(騰訊会議(VooV Meeting))

No.	発表者	発表タイトル
-----	-----	--------

基 調 講 演	高橋弥守彦（大東文化大学名誉教授）	介詞“在”を用いる動詞連語で作る文とその訳
	山本範子（北星学園大学教授）	中国 SF の日本での需要と翻訳の特色
	呉川（日本大学特任教授）	生成 AI の翻訳は人間を越えられるか
	宋協毅（大連大学元教授、元副学長）	新時代」の中日通訳・同時通訳人材育成方法論の一考察
1.	謝冬（长沙学院・副教授）	《罗小黑战记》在日本的传播
2.	王琳軒（中国人民大学・院生）	計量学视角下宮本百合子小説文体的历时变化分析（計量的視角から見た宮本百合子小説の文体的経時変化）
3.	高慧（北京工业大学・院生） 姜毅然（北京工业大学・副教授）	浅谈日本的猫文化
4.	龔智鵬（重慶外国語外事学院・その他）	安部公房における実存主義への偏見について——『方舟さくら丸』における自由への消極的な態度
5.	齊珂（南京工業大学・副教授）	中日古典文学作品におけるキツネにしばる叙事の対照研究——『今昔物語集』と『聊齋志異』を中心に
6.	呉憂（四川大学・院生）	《宇治拾遺物語》与日本佛教教化思想的世俗化
7.	李娟（淄博師範高等専科学校・講師）, 孫文娟（淄博師範高等専科学校・副教授）	村上春樹「嘔吐 1979」論——罪悪感の正体
8.	張雨馨（北京郵電大学・院生）	明治前期の女子教育が性別分業に与えた影響
9.	趙海城（明星大学・教授）	中上級レベル中国人日本語学習者の作文使用語彙の分析—B-JAS データを利用した母語話者との比較—
10.	丁銳昀（浙江師範大学・院生）	外交的ディスコースにおける態度評価の研究——林芳正日本元外務大臣の演説を例に
11.	彭申奥（大連外国語大学・院生）	社会语言学視域下日源新詞“料理”的考察
12.	張明琮（湖北大学・院生）	论总括范围副词“皆”在日语中的去语法化
13.	小田桐ジェイク（筑波学院大学・助教）	会話文から消える句点と作品の読み方 —太宰治『人間失格』の出版史と補助符号の変遷について—
14.	周亜芸（東邦音楽大学・講師）	言語学習におけるトランス・ランゲージング活用の意義に関する考察—日本の大学の留学生向け日本語の授業の場合
15.	張夢華（関西学院大学・院生）	形式名詞「の」「こと」の意味機能と文法機能に関する一考察 —中国語を母語とする日本語学習者の誤用例を手掛かりに—
16.	李修衍（上海外国語大学・その他）	日常会話における形容詞に後続する否定疑問形式「クナイ」について——コーパス調査から
17.	時衛国（山東大学・教授）	”相当”と他の程度副詞との共起について

18.	畢文濤（北京語言大学東京校・講師）	日本学生“满意”“满足”的习得情况分析 & 教学建议
19.	柳宇星（日本大学・助教） 楊悦（日本大学・講師）	中国語会話実践合同授業を通じて見る学生の意識変化と異文化理解について —中国語会話合同授業の成果と課題
20.	高野晃尚（中南大学・助教）	“语用失误”中数据收集法的再思考-以对外汉语教育为例-
21.	金洪連（青山学院大学グローバルビジネス研究所、株式会社 SGS 代表）	日本における中国語学習動機から見る日中交流の変貌に関する研究
22.	朱文婕（大連外国語大学・院生）	模因论视角下汉日“名～”结构对比分析研究
23.	高勝男（大連外国語大学・院生）	关于汉日领属关系被动句差异动因的考察
24.	彭慧（東京都立大学・院生）	日本語の文における動作主の省略条件について — 日中対照研究の観点から —
25.	吳慧怡（浙江師範大学・院生）	及物性视角下中日男士彩妆广告语篇对比研究
26.	祁吉曼（山東大学・院生）	「なら」文と「如果」文のモダリティについての対照研究 — 認知言語学的視点から —
27.	应晓朵（浙江師範大学・院生）	《人民日报》与《朝日新闻》涉日核污染水报道的话语策略对比研究
28.	呂芳（立命館大学衣笠総合研究機構・その他）	格助詞「ニ」と他の格助詞の混同について—中国語を母語とする日本語学習者の誤用例を手掛かりに—
29.	朱峰（広島大学・院生）	中国語を母語とする日本語学習者における授受表現の誤用に関する一考察—本動詞から補助動詞・補助動詞から本動詞への修正をめぐって
30.	王艷（南京農業大学・院生）	日本語専攻において修士の日本語学習ビリーフ — 大学生の日本語学習ビリーフとの比較から —
31.	松永源二郎（香港中文大学（深圳）・副教授）	外国語教育の未来像
32.	姜雨軒（大連外国語大学・院生）	認知類型論的観点による中国人日本語学習者の「使役移動表現」についての習得研究--日本語母語話者との比較を通して--
33.	黃巧靈（大連外国語大学・院生）	—日本語母語話者との比較を通して—
34.	原華耶（広島大学・院生）	日本語教育における CLIL の実践と可能性
35.	吉田陽介（北京理工大学・その他）	中国語評論記事の見出し翻訳の難点と技法
36.	戴媚佳（浙江師範大学・院生）	“一带一路”视角下的中国典籍外译之路——基于《红楼梦》双关语的日译考察
37.	左玉林（南京農業大学・院生）	松冈荣志新译《诗经》的颜色词体认构建
38.	于麗娟（大連理工大学・院生）	汉语“如果类”假定条件句式日译倾向计量研究
39.	田浚人（大連理工大学・院生）	多変量解析による証拠性モダリティの日中対訳研究——

		「ラシイ、ソウダ、ヨウダを中心に」
40.	单艾婷（西南学院大学・助教）	選択体系機能理論に基づく中日翻訳分析 ー原文・学習者訳・熟達者訳の比較を通してー
41.	崔玥婷（大连外国語大学・院生）	日本可再生エネルギー政策文本批評話語分析研究

4. 学会誌刊行

- ・研究会報告第 50 号（東アジア言語文化研究第 6 号）は 2023 年 9 月に刊行し、HP に全文掲載済み
- ・研究会報告第 51 号（東アジア言語文化研究第 7 号）は 2024 年 5 月末に 130 部出版。
- ・5 月末に HP に全文掲載済み。
- ・執筆者へ発送済み。

日本在住の執筆者：5 月末に発送済み(10 編 11 冊)。

中国在住の執筆者：5 月末に船便で中国事務局に発送済み(18 冊)、中国事務局から各執筆者に発送するため、7 月頃に執筆者の手元に届く予定。

5. 2024 年東アジア言語文化学会東北支部大会

期日：2024 年 3 月 30 日（土曜日）

時間：8:30～12:00（北京時間）

開催形式：オンライン開催（騰訊会議 VooV Meeting）

主 催：大連大学外国語学院

講演者：日本側

高橋弥守彦先生：大東文化大学名誉教授、東アジア言語文化学会会長

呉川先生：日本大学特任教授

盧涛先生：広島大学教授、広島大学大学院社会科学研究科副科長、西日本教育研究会代表理事

趙海城先生：明星大学教授、明星大学人文学部国際交流科主任

中国側

宿久高先生：国家教材委員会専門家委員会委員、中国日語教学研究会名誉会長、吉林大学外国語学院元院長

張曉剛先生：長春師範大学特任教授、東北地方中日関係史学会副理事長

林楽常先生：廣東科技学院教授、大連大学日本言語文化学院元院長

6. 連語論普及委員会活動報告

原則毎月第一月曜日 20：00～連語論勉強会開催

連語論関連資料の輪読。

連語論関連特集号の作成・出版。

7. 2024 年度大会

7.1 夏季大会：2024 年 8 月 3 日（土）、4 日（日）の両日開催予定

テーマ：翻訳と通訳を中心に

【基調講演】 4 名(講演：1 名あたり 30 分、最後にディスカッション 30 分)

翻訳関連：時衛国（山東大学）、泉京鹿（翻訳家）。

通訳関連：宋剛（北京外国語大学）、松永源二郎（香港中文大学深圳校）

【研究発表】：（発表 25 分、質疑 10 分）5 月 1 日(月)から研究発表を募集開始

発表募集期間：2024 年 5 月 1 日（水）から 6 月 16 日(日)

予稿集掲載用原稿提出締め切り：7 月 23 日(火)

7.2 冬季大会：2025 年 2 月 15 日(土)、16 日(日)

1. 講演（2 名）の依頼
2. 研究発表者の募集

以上

8. 会計報告、次年度予算案

8.1 会計は毎年4月1日～3月31日までを1会計年度とする。ただし、総会開催時点で報告するのは1月1日～12月31日までの会計状況

2023年度総会 会計報告書					
R5年1月1日からR6年3月31日					
東アジア言語文化学会					
(1) 収入の部	項目	金額	単位	備考	
2023年一般会費（日本側）	会員32名	64,000	円		
2023年院生会員会費（日本側）	会員19名	19,000	円		
2024年一般会費（日本側）	会員1名	2,000	円		
日本側収入小計	51名	85,000	円		
2023年一般会費（中国側）	会員43名	178,847	円	8600	元
2023年院生会員会費（中国側）	会員23名	47,831	円	2300	元
2024年一般会費（中国側）	会員1名	4,159	円	200	元
中国側収入小計	66名	230,837	円	11100	元
前年度繰越金		471,420	円		
1) 収入合計		787,257	円		
(2) 支出の部	項目	金額	単位	備考	
冬季大会基調講演費	森山卓郎	10,000	円	2023.2.27	
ネット維持費	上地宏一	10,000	円	2023.3.8	
出版費	㈱東京技術協会	188,474	円	2023.3.8	
郵送代	㈱東京技術協会	14,729	円	2023.3.8	
郵送代	趙海城 立替金	7,840	円	2023.3.13	
サーバー一年間利用料	桜インターネット㈱	2,614	円	2023.6.16	
サーバー一年間取得料	桜インターネット㈱	1,571	円	2023.9.5	
手数料利用料	ゆうちょ銀行振り込み手数料	2,896	円		
日本側支出小計		238,124	円		
学会印鑑郵送料	福建→遼寧省	374	円	18元相当	
冬季大会基調講演費	陳多友	10,000	円	512元相当	
郵送費	学会誌郵送費用（7人）	1,904	円	97元相当	
夏季大会基調講演費	修剛	10,000	円	482元相当	
中国側支出小計		22,278	円		
2) 支出合計		260,402	円		
次年度繰越金		526,855	円		

監査報告

監査の結果、2023年度会計報告は適正であることを認めます。

年 月 日

監査: 劉雨霏 (印)

監査: 福本陽介 (印)

8.2 次年度の予算案

収支予算概要									
(令和6年4月1日～R7年3月31日)									
東アジア言語文化学会									
科目		予算額		内訳					
1. 収入の部									
一般会費(日本側)		70,000	円	会員35名×2,000円＝70,000円					
院生会員会費(日本側)		20,000	円	会員20名×1,000円＝20,000円					
小計		90,000	円						
一般会費(中国側)		188,700	円	会員45名×200円＝9,000円					
院生会員会費(中国側)		52,417	円	会員25名×100円＝2,500円					
小計(当日レート計算)		241,117	円	11499円(2024年2月16日レートにより、人民元1元＝20.9667円)					
前年度繰越金		526,855	円						
収入合計		857,972	円						
2. 支出の部									
宣伝費		2,614	円	サーバー1年間利用料					
		1,571	円	ドメイン取得料					
学会製作費		190,000	円	東京技術協会出版費用					
郵送通信費		15,000	円	25か所郵送代					
		8,000	円	中国へ郵送代					
雑費		5,000	円	振込手数料					
基調講演費用		40,000	円	夏季、冬季大会基調講師講演費					
管理費		10,000	円	上地先生へネット維持管理費					
支出合計		272,185	円						
次年度繰越金		585,787	円						

9. 事務局からの連絡

9.1 2023年度会費未納の会員はお支払いをお願いいたします。お支払方法はホームページに明示してありますので、それを参照してください。

9.2 学会誌投稿論文(第51号)は執筆要領の規定に沿っていないものがありましたので、次号からは規定通りに最新版のテンプレートを利用して投稿してください。

10. 2025年4月～2026年3月期の役員選挙スケジュール

- ① 2024年9月頃に新理事を選出する。その後、新理事の中より会長、副会長を選出し、更に新会長の指名によって新会長代行、新常務理事を選出する。
- ② 2024年度冬季大会(2025年2月)に新役員人事の発表。
- ③ 2025年4月新体制開始。